



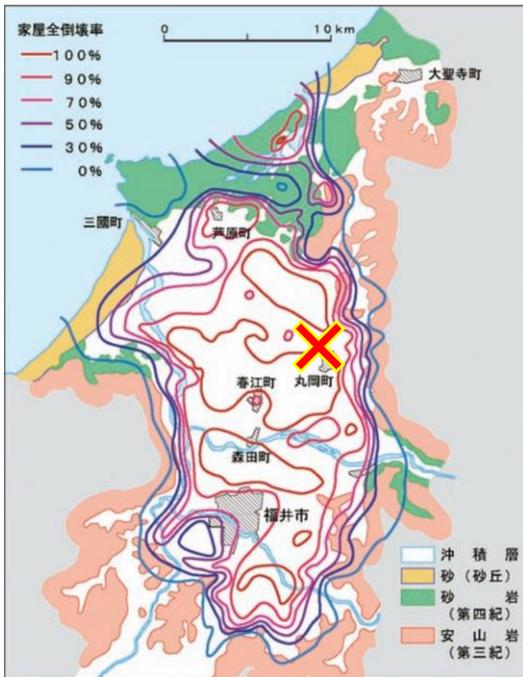
日頃から防災対策や備えの重要性を国民一人一人が認識し、いざその時に迅速かつ適切な対応ができる社会の構築を目標に、減災活動についての情報を提供していきます。

**地震計を効果的に活用するために！**

## 被害情報

### 福井地震

1948年(S23年) 6月28日 16時13分頃



図a 福井地震の家屋全倒壊率

1948年(S23年) 6月28日の夕方、福井県嶺北地方を震源とするM7.1の地震が発生しました。死者は3,769人、住宅の全壊は36,184戸にのぼりました。震度は当時の階級では最大の震度6が発表されました。

激しい揺れにより、震源(図a ×)付近の多くの集落では全壊率が100%に達し、福井市でも総数の80%程度が全壊しました。

参照：内閣府 報告書(1948 福井地震)より  
[https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokkeishou/rep/1948\\_fukui\\_jishin/index.html](https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokkeishou/rep/1948_fukui_jishin/index.html)

引用：地震本部 日本の地震活動(214ページ目)より  
<https://www.iishin.go.jp/main/nihonjishin/2010/chubu.pdf>

気象庁はこの大きな被害を受けて、震度6を倒壊率で区分し、震度階級に新しく震度7を追加しました。(表a)

制定後初めて震度7が発表された1995年兵庫県南部地震の発生後、同じ震度でも被害の幅が大きかった震度5と6は弱と強に分けられ、現在の10段階の震度階級となりました。震度階級は、体感や被害の大きさに対応するような地震動の激しさの程度を階級で表したもので、気象庁は、震度観測を客観的にを行い、その成果を迅速に発表するため、1991年(H3年)世界に先駆け震度計を開発しました。これまでの震度は気象庁職員による体感および現地調査等によるものでしたが、1996年(H8年)震度観測は全面的に震度計で行うこととし、体感による震度観測は廃止されました。さらに兵庫県南部地震の経験により、地方公共団体が独自に震度計を設置し自らの初動防災対応に活用を始めました。

震度6…烈震 家屋の倒壊が30%以下で山くずれが起き、地割れを生じ、多くの人々は立っていることができない程度の地震
震度7…激震 家屋の倒壊が30%以上におよび、山くずれ、地割れ、断層などを生ずる

表a 1949年 気象庁震度階級の解説

参照・引用：気象庁 正確な震度観測を行うためにより  
[https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/shindo-kansoku/seikakunashindo\\_set.pdf](https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/shindo-kansoku/seikakunashindo_set.pdf)

# 教訓 備え

震度計は地震計の一種で（正式名称は『計測震度計』）観測した加速度を基に演算を行い、震度を求める機械です。震度とは揺れの強さで、どのような影響を及ぼすかを示した指標です。気象庁検定に合格した性能を有する地震計のみが「震度計」と呼ばれます。

## 震度の活用

震度に基づく防災関連機関等の対応基準作成をはじめとした防災対策での震度の活用を、より効果的に行うことができるようになりました

初動対応用情報

災害応急対策用情報

状況を確認するための情報

引用：気象庁 震度の活用と震度階級の変遷等に関する参考資料より  
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/study-panel/shindo-kentokai/hensen.pdf>

弊社の「震度計 ACCURA-municipa」<sup>ミュニシパ</sup>（図c）は、気象庁検定に合格した計測震度計で、計測データを演算します。通信回線を通し遠隔からでも情報収集や地震波形の記録発信が可能です。即座に正確な情報を得て、迅速な行動をするために自治体などでもご活用頂けます。



図c 震度計 ACCURA-municipa

測定範囲±4000gal加速度計を内蔵。  
過去の最大地震も振り切らない！

LANによる通信回線経由で多様な遠隔管理機能  
（正常性確認・長周期地震動演算）  
地震波形記録の送信機能

正確に震度を計測し、警報を出すことで初動対応への活用、重要構造物の管理目的の運用にも最適。

# 最近 の地震



2022年5月16日～2022年6月30日までの1か月間の日本全国の震度3以上の有感地震は32回におよびました。

- ・震度6弱：6/19 石川県能登地方
- ・震度5強：6/20 石川県能登地方
- ・震度5弱：5/22 茨城県沖、6/26 熊本県熊本地方
- ・震度4：5/29 茨城県沖、6/17 徳島県南部、6/20 宗谷地方北部、6/26 石川県能登地方

6/19の石川県能登地方の地震では震度6弱を観測しました。翌日にも震度5強の地震が発生しています。同震源では以前から活発な地震活動が見られています。

参照：気象庁 震度データベース検索による  
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/>

# 会社 情報

## 応用地震計測株式会社

Information：減災クリエイター OYOSI・I TEAM防災士

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区别所 7-14-37

TEL：048-866-1228 FAX：048-829-9982

E-mail：marketing@oyosi.co.jp 会社HP：http://www.oyosi.co.jp

